

病害虫発生予察指導情報

(カキ・炭疽病)

令和5年7月21日
鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

7月中旬現在、一部の地域でカキ炭疽病の果実被害が認められています。また、向こう1か月の気象予報（7月13日、広島地方気象台発表）から、今後、カキ炭疽病の発生にやや好適な気象条件となることが予想されます。防除暦に従った防除を実施し、降雨量が多い場合や散布間隔が長くなる場合には追加防除を検討してください。

2. 情報の根拠

- (1) 県下全域での昨年の発生量はやや多く、越冬菌密度もやや多いと見込まれる。
- (2) 7月上旬時点で、県西部地域における新梢及び果実における発生量は前年に比べてやや多い(表1)。
- (3) 向こう1か月の気象予報からカキ炭疽病の発生にやや好適な気象条件となると予想される。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 長雨で散布間隔が長くなると発病が増加するため、定期防除を徹底し、降雨前の防除を心がける。
- (2) 降雨が続く場合や降雨量が多い場合には定期防除に加えて追加防除を検討する。防除薬剤は、有機銅水和剤（キノンドーフロアブルまたはドキリンフロアブル）800倍液、ストロビードライフロアブル3,000倍液、スコア顆粒水和剤3,000倍液、ストライド顆粒水和剤3,000倍液、ナリアWDG2,000倍液、オンリーワンフロアブル2,000倍液などを使用する。
- (3) 定期的に園内を見まわり、発病が認められた果実や新梢（図1）は直ちに切除して、埋めるか園外に持ち出して処分する。枝病斑を探す際は、主枝や垂主枝から発生した新梢や二次伸長している枝を中心に観察する。

表1 県西部ほ場2園におけるカキ炭疽病の発生量（7月3日時点）^{a)}

園地	新梢			果実		
	調査数 (本)	発病率 (%)	前年7月上旬 平均 (%) ^{b)}	調査数 (果)	発病率 (%)	前年7月上旬 平均 (%) ^{b)}
A	90	1.1		90	0	
B	90	4.4		90	1.1	
平均	90	2.8	0.3	90	0.6	0

^{a)}西部農業改良普及所及び農業振興監経営支援課の合同調査による。

^{b)}異なる園地を含む4地点調査による。



図1 カキ炭疽病の発病部位